

出張報告書

令和7年10月17日

福岡市議会議長

平畠 雅博 様

アトランタ市姉妹都市締結20周年福岡市議会友好訪問団

団長	平 畠 雅 博
団員	伊 藤 嘉 人
"	淀 川 幸二郎
"	高 木 勝 利
"	古 川 清 文
"	田 中 しんすけ
"	落 石 俊 則
事務局	久 田 章 浩
"	兒 島 昌 臣
"	池 内 貴 文

この度、下記のとおり出張したので、報告します。

記

1 出張期間

令和7年8月19日(火)～8月24日(日)

2 出張先

アメリカ・アトランタ市

3 用務

福岡市議会アトランタ市姉妹都市締結20周年友好訪問

4 用務の経路及び結果

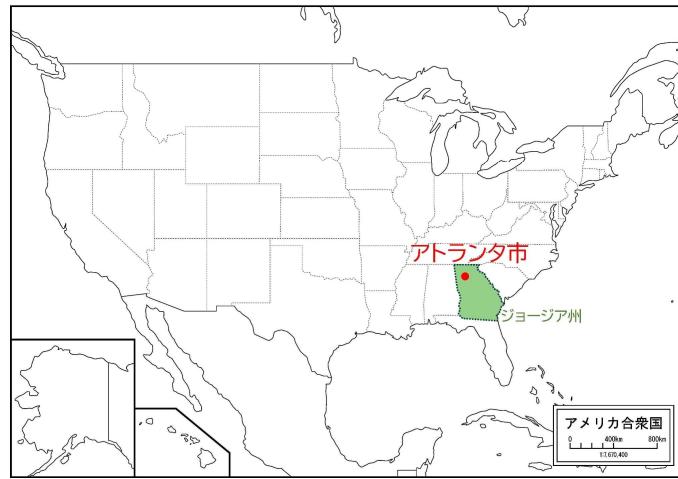
「アトランタ市姉妹都市締結20周年福岡市議会友好訪問団出張報告書」のとおり

アトランタ市姉妹都市締結20周年 福岡市議会友好訪問団 出張報告書

1 概要

(1) 経緯

- ・アトランタ市は、アメリカ合衆国ジョージア州の人口約52万人の州都で、繊維・機械・食品産業や農業が盛んであり、乗降客全米1位のハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港を擁する、全米有数の物流・人流拠点である。コカ・コーラやデルタ航空の本社が所在し、合衆国南東部において日系企業の進出数が最も多い都市である。
- ・福岡市とアトランタ市は、アトランタの日本人商工会議所を通じて福岡市へ都市間交流の提案があり、平成17年（2005年）に姉妹都市となった。
- ・これまで、福岡市とアトランタ市は、姉妹都市関係を基盤として、両市役所および教育委員会、大学や高校、企業や地域で活動する団体などにより、公と民が連携する体制で交流を推進してきた。特に、両市の高校生を毎年相互に派遣し報告会を開催するなど、市民主体による未来志向の交流事業を継続して実施している。
- ・平成27年の姉妹都市締結10周年の際には、福岡市から訪問団を派遣し、また、同年アトランタ市で開催されたジャパンフェストにおいては、福岡市からブース出展を行うなど、文化交流の推進にも寄与している。



(2) 訪問目的・趣旨

- ・グローバル人材の育成や多文化理解を推進するため、姉妹都市締結20周年を記念する各事業や、大学間における金融人材交流に関する協定書の締結、市立高校の姉妹校締結などに市長部局とともに参加し、両市の友好関係をさらに深めるとともに、今後の青少年を中心とした市民交流を一層進める礎を築く。
- ・また、福岡市議会友好訪問団はアトランタ市議会を訪れ、議会間交流として都市政策をテーマに、両市議長および議員により、互いの制度や状況等

を確認しつつ、具体的な政策や課題についての意見交換を行う。特に、2005年に開始され2030年まで続く「ベルトラインプロジェクト」について、10年前の訪問時と比較するため現地での調査を行う。

- ・さらに、同市のキングセンターを訪問し、公民権運動の主導者であるM・L・キング牧師および、今回市立福翔高校と姉妹校となるCSKYWLAの設立者であるコレッタ夫人の業績を現地で学び、合衆国南部において多文化共生社会を目指して課題に向き合ってきた歴史と経緯に直接触れ、関係者との交流を行う。
- ・福岡市とアトランタ市における姉妹都市交流事業、両市議会の意見交換や現地調査の結果を踏まえ、訪問団の活動内容や考察、所見等について、以下のとおり報告する。

(3) 期間

令和7年8月19日（火）～8月24日（日） 6日間

(4) 訪問団員

団長	平畠 雅博	（福岡市議会議長）
団員	伊藤 嘉人	（自由民主党福岡市議団）
団員	淀川 幸二郎	（ // ）
団員	高木 勝利	（公明党福岡市議団）
団員	古川 清文	（ // ）
団員	田中 しんすけ	（福岡市民クラブ）
団員	落石 俊則	（ // ）
（事務局）	久田 章浩	議会事務局長
	兒島 昌臣	総務秘書課長
	池内 貴文	総務秘書課総務係

(5) 行程

8月19日（火）	福岡発（日付変更線越え）アトランタ着
8月20日（水）	アトランタ市議会訪問 ◇福岡・アトランタ青少年訪問団相互派遣事業覚書締結式 キングセンター視察 ◇福岡・アトランタ姉妹都市レセプション（総領事館主催）
8月21日（木）	アトランタベルトラインプロジェクト調査 ◇福岡大学とケネソー州立大学との協定書締結式 ◇姉妹都市締結20周年記念行事 ◇ジョージア日米協会2025年度年次晚餐会

8月22日（金）	100周年記念オリンピック公園視察 メルセデスベンツ・スタジアム視察 ◇福岡市立福翔高校とCSKYWLAとの姉妹校締結式
8月23日（土）	アトランタ発（日付変更線越え）
8月24日（日）	福岡着

※◇は市長部局との共同参加

2 内容

[現地1日目] 8月20日（水）

（1）アトランタ市議会訪問 表敬・意見交換（会場：アトランタ市役所）

【参加者】

アトランタ市議会 ダグ・シップマン議長

ジェイソン・ドージャー議員

（※アトランタ市議会は改選の選挙期間中のため2名が参加）

福岡市議会友好訪問団 平畠団長ほか議員6名（以下同じ）

【目的】

- アトランタ市議会と福岡市議会の制度や仕組みを確認した上で、アトランタ市、福岡市の両市が抱える課題と市議会としての対応、市の取組みについて共有し、課題に対する互いの知見や対応策、取組みなどに関して意見交換を行う。



【内容】

○アトランタ市議会の仕組み

- アトランタ市議会は、議員15名、議長1名（議長として公選され、市長が欠けたときは代行）で構成されている。
- 連邦政府と同じく市長がいわば大統領で、実際に予算や政策を執行するのは市長であり、議会は政策、制度の立案、予算の承認を行っている。

- ・議員はアトランタ市民を代表して選出されており、政治団体や政党には属していない。政党に依った形で代表しているのではなく、政党と関係ないところで個人として選挙で選出されている。政策や法案も個人として立案している。

○アトランタ市の課題

- ・アトランタ市の主な課題は、
 - ①不動産（住宅）価格の高騰。住民の手に届く価格に抑えていくことが大事だと考えており、非常に苦労している。アトランタ市は人口が増え、住宅、不動産価格が上昇している。
 - ②交通渋滞。アトランタ市が以前から引き続き直面している課題である。
 - ③住民の格差と貧困。かなり対策が進捗しているものの、依然として困窮している市民がいるのが現状である。
 - ④都市インフラの更新（水道、建築物）。アトランタ市は1950～60年代の急成長期に建設されたインフラが多く、老朽化に伴う多くの建築物の建替えが課題となっている。
 - ⑤経済開発。国や州とともに広域で対応しており、近隣の大学とも連携している。議員だけでは対応できないので、様々な主体と連携して取り組んでいる。
- ・まとめとして、都市の成長により生じている課題が多い。人や企業の多くがアトランタ市に拠点を移している中、市の構造やインフラをその状態にあった形で改善していくことが課題と認識している。



○福岡市の課題

- ・福岡市多くの課題があるが、主な課題として、
 - ①交通問題。人口167万人の多くがバスやタクシー、地下鉄などの鉄軌道を利用しているが、運転手が減少し、近い将来特にバス・タクシーの運行体制が非常に厳しい状況になると見込んでいる。コストも考慮しながら、アトランタ市で導入されている路面電車や、次世代の地上交通機関など幅広く検討する必要があると認識している。
 - ②災害対応。日本は自然災害が多い国であり、近年も地震や台風などが多く発生している。コストはかかるが、市民の生活を守



るため、復旧や対策にしっかり取り組まなければならず、頭を悩ませているところである。

- ③少子高齢化。これまで現役世代が働き高齢者を支える仕組みでやってきたが、少子高齢化が進んで現役世代の人口が減っており、この仕組みを維持するのが困難になってきている。
- ④インバウンド等の外国人対応。福岡市に海外から多くの方が来られているが、日本のマナーに合わない行為が問題になっている。
- ⑤都市開発に伴う不動産への影響。福岡市も都心部の再開発を行っており、アトランタ市と同様に従来の住民や店舗が、移転後、家賃等の高騰で戻れない問題（ジェントリフィケーション）が生じている。

○アトランタ市の都市政策（主な意見）

- ・アトランタ市にあるメルセデスベンツ・スタジアムが、2026年にアメリカ合衆国、カナダ、メキシコで共同開催予定のFIFAワールドカップの会場の一つとなっており、アトランタ市で8試合が予定されているが、セキュリティや交通対策、オーバーツーリズム問題が課題となっている。
- ・アトランタ市は幸運にも自然災害は多くないが、気候変動の影響で特に夏の猛暑がひどく気温も年々上昇し、大雨で発生する洪水が課題になっている。
- ・洪水対策としては、公園に貯水機能を持たせる設備（ウォーターリテンション）を整備しており、災害対策と市民の憩いの場としての機能を両立させている。
- ・平畠議長が10年前の訪問団で見られたベルトライントレイルについては、元々はアトランタ市にあった鉄道の線路跡に沿って都市開発が進められ、当初は交通網として活用する予定だったが、現在は回廊を散策できる公園（ウォーターフロントウォーク）として整備している。非常に環境が良くなり、今から新たに交通手段を設けるかどうかは議論されている。それほど美しい市民の憩いの場になっている。
- ・アトランタ市でもジェントリフィケーションは事前に予測しており、
 - ①住宅価格が上昇しすぎないように、トレイル自体の建設費用を抑える形での新たなツールを立案している。
 - ②土地の価格に対して事業主に特別に課税（スペシャル・サービス・ディストリクト）しており、また、連邦政府からの拠出金、住宅に関する債券発行（ハウジング・ボンド）を実施している。
 - ③法律によりトレイル周辺区域をゾーニングし、一定規模以上の住宅には価格制限を設けることで、価格上昇を抑制している（アフォーダブル・ハウジング）。



- ・これらの政策を組み合わせることで、事業の財源を確保し、価格上昇を抑え、手が届く範囲での住宅価格になるよう取り組んでいる。
- ・アトランタ市では長期に及ぶベルトライン開発を、日々の状況に合わせ、市民の意見を反映させながら柔軟に計画を変えている。例えば、気候変動による洪水対策や、アート展示やファーマーズマーケットなど市民の憩いや活動の場として活用できるよう整備している。
- ・ベルトラインプロジェクトの対象地域は、26 のネイバーフッド（街区）で構成されている。当初はそれぞれの地域で意見の相違が大きく見られたが、ワークショップを通じて市民との対話を重ねることで、整備計画や方法に対する理解と合意形成が進んだ。
- ・これらのワークショップでは、計画内容を市民に直接フィードバックすることで、地域のニーズを反映した柔軟な対応が可能となっている。事業開始後も、ワークショップは 3 か月に 1 度、必ずどこかの地域で継続的に開催されており、市民参加型のプロセスが維持されている。
- ・市民からのフィードバックにより、プロジェクト自体も当初予定と変わり、建設やプログラムにも反映されている。例えば、アクティビティとしてヨガやアート芸術のイベント、ファーマーズマーケットなどが新設されている。
- ・私（ドージャー議員）の選挙区には 17 のネイバーフッドがあり、さらにビジネス、宗教、機関、フォームオーナーズ（土地所有者の協会）、借家人の方々などの多くの団体がある。それ意見が違っており、議員はそれらをまとめて代表しているため困難が多い。プロジェクトは変化を伴うため、慣れ親しんだ自分の居場所や地域の文化を壊してしまうと捉える方もいれば、所有する資産の価値が上がることをポジティブにとらえる方もいる。様々な意見があり困難な状況の中で政策を決め、まちを動かしていくのが政治の役割であり、議員と議会の使命だと考えている。世界中の政治家や議員も同様に困難な中で取り組んでいると思う。
- ・アトランタ市は非常にユニークなまちで、過去 50 年にわたり NPU（ネイバーフッド・プランニング・ユニットシステム）という仕組みがある。土地使用のゾーニングで変更がある場合、必ず NPU を通して様々なアイデアをレビューする決まりになっている。NPU がレビューをした後の案件が市議会の議案として上がってくる仕組みである。
- ・NPU は市民のボランティアで担われ、市役所の職員がサポートしている。そして現在の議員の多くが NPU に参加した経験を持っていて、市民参加型の都市計画が根付いている。
- ・本年 5 月から、両市の事務局を通じて内容等の調整を綿密に行ってきてきたことで大変有意義な意見交換ができたと思う。関係各位の努力により、今回の機会が得られたことに深く感謝したい。



【所見】

- ・打ち解けた雰囲気の中、お互いのテーマについて実りある協議ができた。
- ・アトランタ市議会議員は政党とは関係なく選出され、党の利害ではなく個人として政策を立案しているとの話が印象的だった。
- ・ベルトラインの政策立案の経緯や制度、課題などを聞いたうえで現地を視察することができ、鉄道回廊を再活用しながら、人と縁、建物が調和した整備が進められている。
- ・本市でも同様の課題を有していると感じ、今後も互いの政策を参考にしていきたい。

(2) 青少年交流に関する覚書締結式（会場：ノースアトランタ高校）

【締結者】

福岡市 高島宗一郎市長（福岡市姉妹都市委員会委員長）
アトランタ市教育委員会 ブライアン・ジョンソン教育長
アトランタ市姉妹都市委員会 恵子スコット福岡部会長
デルタ航空 横澤昭徳日本地区営業本部本部長
大韓航空 小林大介日本地域本部旅客チーム

【立会人】

在アトランタ日本国総領事館 前田未央総領事
福岡市議会 平畑雅博議長
アトランタ市議会 メアリー・ノーウッド議員
アトランタ市長室 オースティン・ワグナー副室長
アトランタ市教育委員会 カーティス・ダグラス地区教育長

【参加者】

福岡市議会友好訪問団
在アトランタ日本国総領事館副領事ほか
アトランタ市国際部副代表ほか
アトランタ市教育委員会ノースアトランタ高校校長ほか
福岡市の高校生8名（アトランタ市でホームステイ中）

【目的】

- ・事業主体である福岡市、アトランタ市教育委員会（APS）および両市姉妹都市委員会、支援企業であるデルタ航空、大韓航空を当事者として、福岡市とアトランタ市間の青少年交流訪問団相互派遣事業を推進する内容の覚書を締結する。



【内容】

- ・福岡市とアトランタ市の青少年交流は、姉妹都市締結前から30年の歴史があり、これまで約160名が相互に訪問し、異文化理解とグローバル人材の育成に貢献している。特に、ノースアトランタ高校および両市姉妹都市委員会の尽力により、交流事業が継続的に実施されている。
- ・今回は、高校生の企業訪問やフライトサポート等に協力してきたデルタ航空、大韓航空も参加し、福岡市とアトランタ市教育委員会との間で覚書を締結した。
- ・両市の姉妹都市委員会およびノースアトランタ高校は、相互に訪問団員の募集、人選と派遣、受け入れプログラムの策定、学校体験やホームステイ先の調整などの具体的な交流の実務を担っている。また、デルタ航空と大韓航空は、派遣生徒の企業訪問の受け入れや航空券の割引等の支援を行っている。



【所見】

- ・アトランタ市および同市議会の支援も受け、さらに事業を継続発展する体制が整った。福岡市議会としても、引き続き事業への理解協力を進めていく。
- ・留学参加中の高校生が生き生きとしていたのが印象的。今後グローバルな人材として育ってほしい。またこうした青少年交流の機会がさらに増えることを期待したい。
- ・高校生の「帰りたくない」「楽しかった」との声が印象的で、交流の意義を実感した。
- ・若いうちから英語や異文化に触れることが重要性を再認識し、将来の可能性を広げる機会として継続していく必要がある。



(ホームステイ中の高校生との懇談の様子)

(3) キングセンター観察

(The Martin Luther King Jr. Center for Nonviolent Social Change)

【目的】

- ・アメリカ公民権運動の象徴であるキング牧師と、今回の事業で市立福翔高校の姉妹校となる

「CSKYWLA」の設立者でもあるコレッタ夫人による、公民権運動の理念と行動の歴史をたどり、合衆国において多文化共生社会を目指す活動の意義と課題や葛藤に直接触れて学ぶ。



【内容】

- ・キングセンターは、公民権運動の主導者であるM・L・キング牧師の功績を後世に伝えるため、コレッタ夫人が設立した施設である。
- ・キング牧師が提唱した「非暴力による社会変革」の哲学を伝える展示活動が行われており、当施設を含む国立歴史公園は、年間100万人以上が訪問する歴史文化拠点となっている。
- ・また、コレッタ夫人の功績も展示されており、CSKYWLA設立に込められた思いや活動の背景を紹介する映像資料や写真展示なども含め、その思想や行動力を学ぶ。

【所見】

- ・公民権運動に尽力したキング牧師とその妻コレッタ夫人の人生、哲学と功績に触れ、非暴力の精神と、それが現代社会に与え続ける影響を現地で直接学ぶことができ、大変有意義で貴重な機会となった。



- ・インド独立の父マハトマ・ガンジーとキング牧師の写真と二人の偉人の非暴力の活動に心動かされた。
- ・公共性のある存在価値の高い施設であり、人権に関する施設の必要性を感じた。

(4) 福岡・アトランタ姉妹都市セレブション
(会場：在アトランタ日本国総領事館公邸)

【主催者】

在アトランタ日本国総領事館
前田未央総領事、前田総領事夫人、金田宏之首席領事、
倉島美保広報班副領事ほか

【出席者】

高島宗一郎福岡市長、福岡市議会友好訪問団、姉妹都市委員会、
在外公館職員、ジョージア日米協会、ノースアトランタ高校、
アトランタ市関係者ほか約70名

【内容】

- これまで姉妹都市交流にご尽力いただいた以下の4団体と個人6名に対し、福岡市を代表して市長から感謝状を贈呈し、福岡市議会議長から感謝の言葉を伝えるとともに、関係者との懇親を深めた。
- 感謝状を授与した4団体について、「アトランタ市姉妹都市委員会」は、青少年交流のカウンターパートとして長年交流の実務に携わり、「ジョージア日米協会」は、アジア太平洋こども会議の派遣・招へい等に尽力されている。「ノースアトランタ高校」は、福岡市からの青少年訪問団の受入れと福岡市への同校生徒の派遣を続けており、「アトランタ植物園」は、福岡市との姉妹都市締結を記念した日本庭園があり、今回の20周年記念行事でも灯籠の設置と植樹を行っている。



- 感謝状を授与した個人6名については、アトランタ市姉妹都市委員会の福岡部会長やジョージア日米協会の事務局長、ノースアトランタ高校の副校長など、これまでの交流活動に多大な貢献をされてきた方々である。

【所見】

- 姉妹都市関係に尽力された関係者と親交を深めることができた。
- 平畠議長の音頭により、博多祇園山笠で行われる「博多手一本」を一同で行い、大いに場を盛り上げるなど、福岡の伝統文化の一端を紹介することができて良かった。

[現地2日目] 8月21日(木)

(1) アトランタベルトライントラックプロジェクト調査 (下記①～③の視察地調査)

【参加者】

福岡市議会友好訪問団

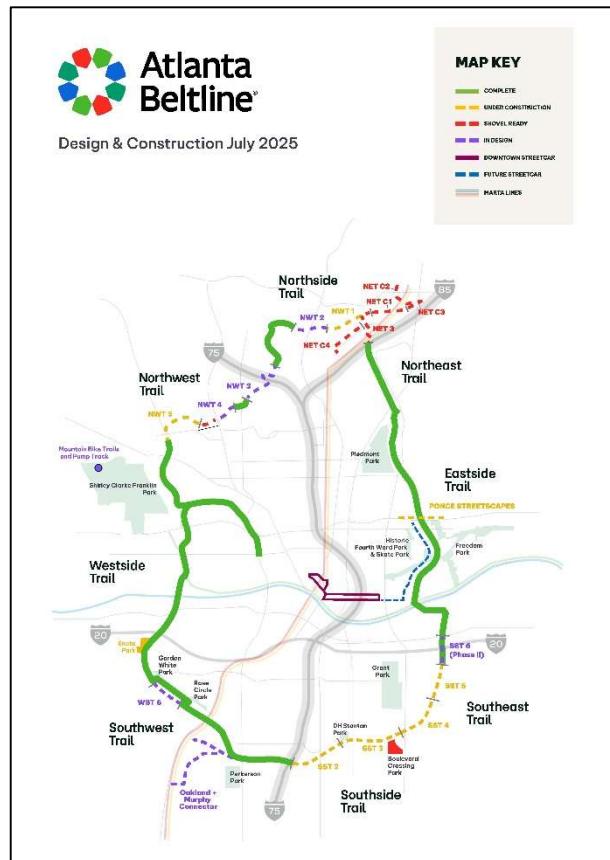
ケビン・バーク (アトランタベルトライントラック株式会社デザインディレクター)

※当日急用で欠席されたため、事前調査に基づき現地視察を実施。

【事業の概要】

・2030年完成目標のアトランタ市の長期都市再開発プロジェクトで、福岡市議会は10年前の訪問時にも視察している。包括的な長期計画であるSIP（アトランタベルトライントラック戦略的実施戦略）をもとに、かつて鉄道回廊だった廃線跡を利用し、市内各地域を結ぶ多目的トレイル（多目的歩行・自転車道）、路面電車、公園等の整備を通じて交通インフラおよび周辺地域の再生を図るもので、事業費は約4,900億円にのぼり、合衆国内で進行中の都市再開発プロジェクトとして最大級の規模を誇る。

・ビジネス中心街と文化財、公園や住宅施設などを環状ルートで結ぶことで、観光利用も含めたまち全体の価値が向上し、投資が進み発展を促進する枠組みである。市民の意見を集めながら公社「Atlanta Beltline Inc.」と市が共同して事業を推進している。



(アトランタベルトライントラック整備状況)

【経緯】

- ・当初はジョージア工科大学の大学院生が考案し、その後地域を訪ね広範な支持を得て、市議会議長も賛同し2005年に公社の設立を主導してきた。
- ・旧鉄道用地を活用した全長22マイル（約35km）のトレイルは現在約75%が完成し、2030年までの全線完成を目指している。公園の整備はリーマンショックの影響による税収減で一時停止し、経済開発の原動力となるトレイル整

備に集中されている。今年度からは財源が確保できたことで大規模公園の建設がリスタートしている。

- ・プロジェクト完成は 2030 年を見込んでおり、現市長は税配分地区を 30 年間再延長し、その財源を担保にストリートカー（路面電車）交通システム建設を推進している。

【財源】

- ・本事業最大の財源は「税配分地区（Tax Allocation District : TAD）」（合衆国内の他地域では「Tax Increment Financing : TIF」と呼ぶ。）である。
- ・区域内の各機関は TAD に参加するかどうかを選択でき、参加すると 25 年間増加分の税が免除されるが、開発によりトータルの税収増加が期待できる仕組みとなっている。
- ・連邦政府からの資金提供もあるが、政権政党の動向によって左右される。
- ・アトランタ市はコカ・コーラの本拠地でもあり民間の慈善団体からの資金提供にも恵まれている。
- ・さらに、開発事業者に小規模課税（ミレッジ増税）を導入し、トレイル完成の資金として活用（税収約 1 億ドルでプロジェクト完遂に大きく貢献）されている。



【運営】

- ・公園やトレイルの維持管理はアトランタ市の公園局が担当している。予算が十分でなく他部門より給与が低いため、優秀な人材が集まりにくいのが課題である（アトランタに限らず合衆国内全体の問題）。
- ・州法により TAD 資金は運営・維持管理費には使えず、市と共同で NGO 「Trees Atlanta」に数十万ドルずつ支払い、トレイル沿いの景観を維持している（ただし、公園維持は対象外）。
- ・住民意見を計画や実施に反映する仕組みとして、2009 年初頭から充実したコミュニティ・エンゲージメントプログラムが実施されており、現在も継続している。プロジェクト実施の際は、地域住民にアウトリーチを行う。



- ・全トレイルの範囲を 10 のサブエリアに分け、地域ごとの声を丁寧に拾っている。計画対象地域（両側約 0.5 マイル（約 800m）にある 46 の地域）の、よりローカルなニーズに対応するためである。
- ・直接管理できるのは旧鉄道用地に該当する部分（環状のベルトライン開発のうち、時計でいうと 1 時～10 時に該当する範囲）で、それ以外は公共用地や民間地権者との交渉で進めている。
- ・開発計画は不況の影響から、当初の「交通・トレイル・公園」から「トレイルのみ」に変更したが、整備の実施で不動産価値が大幅に上昇したため、公園整備の資金が再び確保可能になった（交通をどこまで整備するかは今後の検討課題となっている）。

【社会的弱者への配慮】

- ・低所得者層や高齢者などの社会的弱者への配慮について、開発で地価が上昇すると、低所得者や高齢者が固定資産税増の影響を受ける問題は、プロジェクト開始時から認識されていた。
- ・債券発行収益の 15% またはそれ以上を「アフォーダブル・ハウジング信託基金」に充当し、アフォーダブル住宅（中低所得層が無理なく支払える価格帯の住宅）を建設する民間業者に資金提供する仕組みを整備するも、不況の影響で当初の意図通りに進まなかった。
- ・そこで現市長は、市議会議員時代に 10 戸以上の集合住宅を建設する開発業者に対し、総戸数の 15% を「平均所得の 80% 以下」または 10% を「60% 以下」の世帯向けに提供するよう義務付ける条例を制定した。少数ではあるが基準を超えて対応している事業者もあり、一定の成果があったものと考えられている。

【各調査先の状況】

①ベルトライン廃線跡 (Irwin Street)

- ・廃線跡（踏切等）の名残が残る場所で、10 年前は線路跡が残っていたが現在は再開発による整備済である。
- ・再整備後、線路跡はジョギングや散歩、自転車やセグウェイ、電動キックボードでの走行も可能な専用ルートとして整備された。通路沿いにはベンチや公園、飲食スペースやオフィスなどの併設された商業施設が並んでいる。調査訪問時も、多くの市民が自転車やジョギング、散策などを楽しんでいる姿が見られた。



- ・交差点南西角に最近建設されたオフィスビルの開発業者は、現在交差点北西側の区画全体（ベルトラインの回廊と Irwin/Sampson/Magruder 各通りに囲まれたエリア）を所有しており、金利が下がるのを待って再開発を進める予定とのことである。
- ・一方で、ベルトライン周辺地域は再整備により高付加価値の不動産が増えて収入の高い市民が集積し、以前から居住する地域住民が流出する傾向も見られ、ジェントリフィケーションへの対策が課題と言われている。



(整備前の Irwin Street : 2014 年)

②ポンス・シティ・マーケット (Ponce City Market : PCM)

- ・歴史的建築物をリニューアルし、オールド ファッションの商業施設として再生された。趣あるレトロな雰囲気で人気が高く、オフィスとショッピング、飲食など幅広い施設として活用されている。
- ・PCM では、当初元々あった建物の再開発のみを計画していたが、後に開発者である Jamestown Properties (JP) が周辺に従来型アパートや長期滞在型アパート、木造オフィスビルなどを建設している。
- ・歴史的建築物の保存と再活用では、建物内部の撤去や構造の再構築、中央のフードコートや店舗、アパート、オフィススペース、駐車場の整備などの初期費用が課題となっていたが、JP は魅力的な空間を作るため費用を惜しまず取り組んだ。



・その結果 2014 年の開業時には、当時オフィススペースの賃料が市内で最高だったにもかかわらず、若い社員が市内に住みベルトラインを使って通勤できる利便性の高さから、多くの企業が拠点の設置を希望したと聞いている。

③アパートメント・親水公園 (Historic Fourth Ward Park)

- ・ベルトライン開発による課題への対策として低所得者向けのアパートメントが整備された。また、洪水による浸水リスク対策のため、ため池として活用できる公園を整備し、地域の憩いの場としても活用されている。
- ・PCM周辺の3つの河川の交差地点で発生していた洪水問題を解決することを目的として、公園の雨水管理システムが整備されている。
- ・2011年初頭に開園した後、公園の雨水管理システムにより、JPによるPCMの開発が成功し、周辺のアパートや商業施設の開発につながり、活気のある環境を実現した。公園の残りの部分は、かつての工業地帯で周辺に低所得者向け住宅が多くたため、憩いの場となるオープンスペースとして計画されている。
- ・公園周辺のエリアは、当初ゾーニングをもとに、ほぼ再開発が完了した。残りの敷地が再開発されると、予測される100億ドルの増分価格のうち24%が、この公園周辺に集中することになる。



- ・この再開発が、20年前まで企業や住民に魅力的でなかった地域が、広範囲から訪問者や入居者を引き寄せる魅力的な地域へと変わるきっかけとなった。

④その他

- ・歴史的建築物や観光施設を自転車や徒歩で結ぶラインとなるほか、交通ルートとしてのストリートカー（路面電車）の延伸計画がある。一方、地域住民の意見により、交通からアートやイベント行事ができる広場や公園へと計画変更された部分もあるとのことである。

【効果】

- ・アトランタベルトラインプロジェクトは、都市構造に大きな変化をもたらした。かつて郊外へのスプロール化（都市の拡散）が進んでいたアトランタ市において、ベルトラインは都市中心部への人口回帰を促進し、再中心化の流れを生み出した。
- ・これにより、車依存・低密度・非効率な都市構造の改善が図られ、若者や高齢者を中心に、車なしでも生活できる環境へのニーズが高まっている。ベルトラ

インはトレイルや公共交通機関への接続性が高く、こうしたニーズに応える都市空間を提供している。

- ・また、高密度な都市構造はエネルギー効率に優れ、CO₂排出量の抑制にも寄与している。周辺では緑地の拡張も進められており、持続可能な都市づくりに貢献している。
- ・中心部に人が集まることで、商業・文化・雇用の機会が増え、地域の活力も高まっている。
- ・ベルトラインは住宅、職場、公園、芸術空間などを一体的に整備することで、都市の魅力を高め、コミュニティの再生にも寄与していると言える。
- ・2010年から2023年にかけて、ベルトライン周辺では人口が25%増加し、都市全体の成長率を上回る急成長を記録している。ミッドタウンなどの地域では、平方マイル当たり1万5千人以上の高密度地域が形成され、歩行可能で公共交通に接続された生活圏が確立されている。
- ・一方で、こうした成長に伴う社会的弱者への配慮や、以前からの住民の流出が課題とされており。再配分政策などにも引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・このように、ベルトラインはアトランタ市の都市構造を「分散型」から「集約型」へと再構築する象徴的なプロジェクトとなっており、今後も都市の質と公平性の両立を目指す取組みとして、重要な役割を果たしていくと考えられている。



【所見】

- ・市民や関係者の意見を聞きながら、時代や状況にあった活用方法や魅力づくりに柔軟に取り組まれ、10年前から想像できない程まちづくりが進捗している。



- ・歩行者を優先したジョギング、散歩などの安全な空間が確保され、自転車やスマートモビリティの利用も多く、地域住民や観光客にとって憩える都市空間が整備されている。
- ・都市再開発と経済活性化に寄与しており、公共空間整備の参考となった。

《参考》ロボタクシー（無人運転タクシー）乗車体験について

【趣旨】

- ・アトランタ市議会との意見交換でもあったように、福岡市ひいては日本における運転手の扱い手不足が、今後の公共交通機関の維持にとって大きな課題となっているため、アトランタ市で実用化されているロボタクシー（無人運転タクシー）を実際に利用体験するもの。



【内容】

- ・合衆国内でも無人運転タクシーの営業運行は地域限定で、アトランタ市は主要都市の中でも先行して2025年6月から本格運用されている。
- ・無人運転タクシーは走行できるエリア等運行条件が限られているため、条件の合った宿泊ホテルから最初の調査先であるベルトライン廃線跡までの移動区間を使って、ウーバー社のアプリにより無人運転タクシーの配車を手配し、乗車体験を行った。アプリでのタクシー手配時は、有人・無人の区別なく配車されるが、事前に通知があり、乗客は無人運転タクシーへの乗車を受け入れるか選択可能となっている。
- ・料金の支払いはアプリ上で行う。合衆国内はチップ文化がある中、運転手不在のタクシーであるため、チップの支払いは不要である。

（乗車区間）宿泊ホテル→ベルトライン廃線跡（約4km、所要時間12分）

※アトランタ市中心部エリア内

（所要額）22.98ドル（約3,396円）

（乗車者）田中(し)議員、古川議員、淀川議員、池内係員

【所見】

- ・実際にレベル5の自動運転の無人タクシーに乗車したが、体感的には安全性に問題がないと実感した。加速や減速、ブレーキ、交差点などでのハンドル操作でも気になることはなく、有人の運転と変わらなかった。
- ・現地日本人への聞き取りによると、合衆国では、人々の運転手に対する信頼度が、日本と比べて相対的に高くなく、事故やトラブルも多い印象。このことが早期の無人運行の実用化に影響があった可能性を指摘している。滞在中無人タクシーはほとんど見かけなかっ



たものの、先進的な取組みであり、日本および福岡市でも可能なエリアで社会実験として一歩進めることができると強く感じた。

(2) 福岡大学とケネソー州立大学との協定書締結式（会場：ケネソー州立大学）

【締結者】

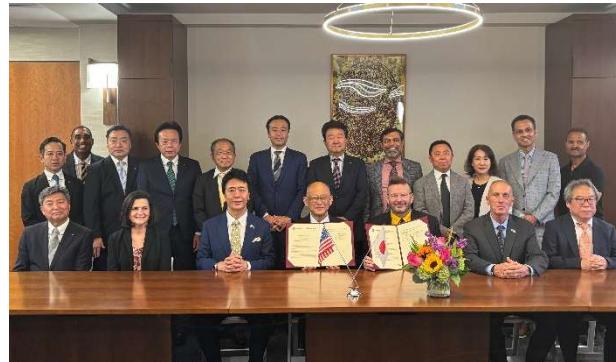
ケネソー州立大学 シエブ・トゥルーフ副学長
福岡大学 永田潔文学長

【立会人】

福岡市 高島宗一郎福岡市長
ケネソー市 ディレック・イースタリング市長
福岡市議会 平畠雅博議長
在アトランタ日本国総領事館 前田未央総領事
福岡市議会友好訪問団

【目的】

- ・福岡市は、国際金融都市を目指して産学官一体の「TEAM FUKUOKA」を設立し、フィンテックや資産運用業などを積極的に誘致し、豊かな市民社会の実現と継続的にイノベーションを創出する国際都市を目指している。
- ・ケネソー州立大学は、フィンテック分野の強みを持つプログラムを提供しており、福岡大学との協定を通じて、両大学の学生がグローバルに活躍するフィンテック人材に育ち、将来福岡市で国際金融取引の担い手として活躍することが期待されている。



【内容】

- ・アトランタ市が州都であるジョージア州は、全米の7割以上のデジタル取引が処理されるフィンテック産業の集積地であり、福岡市は以前から注目していた。
- ・昨年8月にアトランタ市で開催された「Fintech South 2024」に参加した福岡市がケネソー州立大学と接点を持ち、福岡大学を紹介したことでの連携が進展し、今回の協定書締結に至ったものである。
- ・来年6月にケネソー州立大学から福岡大学に学生および教員を迎える予定である。

【所見】

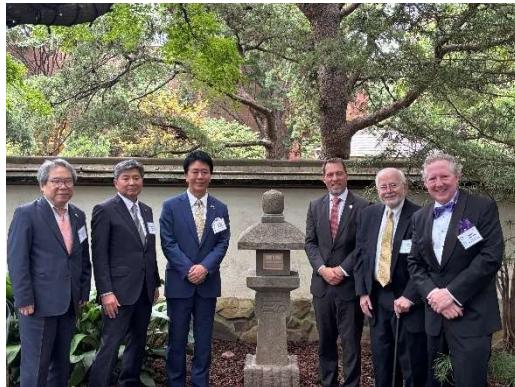
- ・大学生同士の交流が進み、フィンテックに限らず世界で活躍できるグローバルな人材の育成に貢献する協定であり、今後も大いに期待したい。
- ・フィンテック分野での連携が福岡市の国際金融都市構想に貢献し、グローバル人材育成の起爆剤となることが期待された。
- ・福岡大学に限らず、市内の他大学との連携も進められるよう、市としての支援強化が求められると感じた。



（3）姉妹都市締結20周年記念行事（会場：アトランタ植物園）

【概要】

- ・アトランタ植物園には日本庭園が整備されており、アトランタ市において日本文化を伝える重要な空間となっている。
- ・今回の姉妹都市締結20周年を記念して、福岡市から寄贈した灯籠の除幕式とツツジの植樹を行った。



【参加者】

福岡市　高島宗一郎市長ほか
福岡市議会　平畠雅博議長、福岡市議会友好訪問団
在アトランタ日本国総領事館　前田未央総領事、倉島美保副領事ほか
ジョージア日米協会　ジム・ウィットコム会長、堂本和義事務局長ほか
アトランタ市議会　ダグ・シップマン議長ほか
アトランタ植物園　アマンダ・ベネット副園長ほか
アトランタ市役所　メレディス・ロドリゲス国際部副代表ほか

【所見】

- ・アトランタ植物園の日本庭園に、今回の事業で灯籠やサツキが、福岡市との姉妹都市友好の象徴として整備され大変良かった。
- ・今後も、多くの市民や観光客が訪れるアトランタ植物園で親しまれることを望みたい。



(4) ジョージア日米協会 2025 年度年次晩餐会

(会場：アトランタ植物園 Day Hall)

【概要】

- ・ジョージア日米協会が主催する年次晩餐会において、今年は福岡市とアトランタ市の姉妹都市締結20周年を祝う会として開催された。

【出席者】

ジョージア日米協会 ジム・ウィットコム会長、パトリック・レンズ副会長、堂本事務局長、同協会の会員企業・団体・個人、在アトランタ日本国総領事館、高島宗一郎福岡市長、福岡市議会友好訪問団、アトランタ市議会、アトランタ市役所、アトランタ市教育委員会、福岡大学、ケネソー州立大学、ノースアトランタ高校ほか関係者約250名

【内容】

- ・高島福岡市長から、福岡市について、アトランタ市と比較した現在の状況と交流の歴史、現在力を入れている市政の取組みなど、福岡市への訪問経験のない方にも分かりやすく紹介するプレゼンを、大型モニターを使って行った。
- ・平畠福岡市議会議長からは、ジョージア日米協会の関係者に対し、姉妹都市交流への貢献に対する感謝の気持ちを伝え、多くの協会関係者との交流と親睦を深めた。
- ・ジョージア日米協会は、多くの日系企業や在アトランタを含む団体・個人が在籍しており、福岡市との関係では、アジア太平洋こども会議への協力支援を始め、青少年交流や経済分野の民間交流への支援などを行っている。



【所見】

- 多くの日米協会関係者と交流を深めることができた。協会の方々が精力的かつ献身的に交流を支えておられる姿が印象的だった。
- 姉妹都市交流を生かし、ジョージア州在住の企業や邦人の方々との関係を今後も大事にしていく必要があると感じ、今後の交流促進に向けた基盤づくりの重要性が認識された。



[現地3日目] 8月22日（金）

(1) 100周年オリンピック公園視察

【概要】

- 1996年に開催されたアトランタオリンピックを記念して整備された公園で、当時の参加選手名のプレートやモニュメントが設置されており、市民の憩いの場として親しまれている。
- まちの中心部に22エーカー（約8万9千m²）の広さの公園が整備されており、オリンピックのレガシーとしての設備や親水空間、芝生などが配置され、幅広い世代の市民や観光客が憩えるよう工夫されている。
- アトランタ市の象徴的な場所であるため、管理にも力を入れている。



【所見】

- オリンピック開催時のレガシー（銅像や参加選手の手形、五輪のシンボルマークなど）が工夫して展示され、市民や来訪者に親しまれる公園として良く整備されており大変参考になった。
- 公園は市民の憩いの場として整備されており、都市の魅力向上に寄与していると感じた。

(2) メルセデスベンツ・スタジアム視察

【概要】

- ・アトランタ市議会で紹介された、アトランタ市中心部にある2026FIFAワールドカップの会場の一つである。
- ・2017年8月に開閉式スタジアムを官民連携で建設し、環境に配慮したサステナブルな取組みを行っている。
- ・4千枚のソーラーパネルによる発電、側面の半透明パネルによる自然光の活用、LED照明により電力を3割削減している。また、雨水を68万ガロンの巨大貯水槽(25mプール約10杯分)に貯めてリサイクル・再利用し、車椅子対応や駐車場のバリアフリー化を行い、隣接地には緑地エリアを設置している。
- ・施設はジョージア州が設立した公的機関「ジョージア・ワールド・コングレス・センター公社(GWCCA)」が所有し、アトランタ・ファルコンズ(アメリカンフットボール)やアトランタ・ユナイテッドFC(サッカー)を運営するAMBグループが運営を担っている。施設の建設は、ジョージア州およびアトランタ市による公的資金と、AMBグループによる民間資金を組み合わせた官民連携で実施された。



【所見】

- ・まちのランドマークとなる、スケールの大きな近未来的な外観のスタジアムで、アメフトのNFL(アトランタ・ファルコンズ)とサッカーのMLS(アトランタ・ユナイテッドFC)双方の本拠地となっているのが印象的。
- ・雨水の有効活用など環境に配慮し、持続可能性を重視した建設、運営方針とする姿勢に関心を持った。

(3) 福岡市立福翔高校とCSKYWLA(アトランタ公立学校)との姉妹校締結式
(会場:コレッタ・スコット・キング・ヤング・ウィメンズ・リーダーシップ・アカデミー(CSKYWLA))

【締結者】

CSKYWLA ユランダ・ワシントン校長

福岡市立福翔高校 山田耕史校長

【立会人】

福岡市 高島宗一郎市長

福岡市議会 平畠雅博議長

アトランタ市教育委員会 マーガレット・マッケンジー世界言語担当

福岡市議会友好訪問団

アトランタ市議会 メアリー・ノーウッド議員

在アトランタ日本国総領事館 前田総領事夫人、金田宏之首席領事

CSKYWLA キミエ・ブリーム日本語教諭、日本語クラス受講生

福翔高校 德浦望英語教諭、在校生6名(3年生3名、2年生3名)

【目的】

- ・姉妹校を締結し、交流を通じて海外の文化や習慣などに触れ、福岡市とアトランタ市の懸け橋となるグローバル人材の育成を図る。



【内容】

- ・両校は在アトランタ日本国総領事館による紹介がきっかけで交流が始まり、2022年にはビデオメッセージを交換し、CSKYWLAの生徒が福岡市を2回訪問して福翔高校の生徒たちと交流を行った。今回は初めて福翔高校の生徒がアトランタ市の同校を訪問している。



(福翔高校生徒との懇談の様子)

【所見】

- ・福翔高校の生徒はいずれも明るく元気で、充実した留学経験が今後の夢や目標につながったとのこと。多くの福岡市の高校生にも、海外留学を経験する機会を持ってほしい。
- ・キング牧師夫人の設立した学校と姉妹校となり、その精神を学ぶことは大変意義のあることだと感じた。

3 総括（まとめ）

- (1) 今回の訪問では、姉妹都市締結 10 周年の訪問時と比較しながら、現在のアトランタベルトラインプロジェクトの成果や両市の抱える課題についてアトランタ市議会と意見交換を行い、現地の視察を行うことで、より深く都市の成長に伴う課題と解決に向けた取組みについての認識を共有することができた。また、合衆国における過去の公民権運動を現地で直接学び、人権の普遍的な大切さを改めて認識することができた。さらに、大学間の協定や高校の姉妹校といった関係を通して、未来に向けて青少年交流を強化する礎を築く一端を担い、今後も交流を推進していくことが重要であると感じた。
- (2) 最後に、今回の訪問をもとに、福岡市議会友好訪問団一同は、今後に向けた考え方を次のとおり示したい。
- ・姉妹都市の友好関係をもとにした過去の交流を大切に、これまで貢献いただいた関係者の方々に深く感謝しながら、今後も相互に有意義な交流が続けられるよう取り組んでいく必要がある。
 - ・お互いの市の現状と課題を、両市議会の議員同士で共有できた今回の経験をもとに、今後のより良い市政に生かしていく。
 - ・未来に向けた青少年交流をさらに推進するため、市民を代表する議会としてもその意義を広めるとともに、さらなる拡大に向けた検討や支援にしっかり取り組んでいく。

(以上)